

紙本著色真觀上人画像



〔指 定 年 月 日〕 昭和六一年三月三二日  
〔種 別〕 有形文化財（絵画）  
〔名 称〕 紙本著色真觀上人画像  
〔点 数〕 一幅  
〔所 有 者 等〕 眞盛寺  
〔所 在 地 等〕 梅里一——一

## 紙本著色真観上人画像

縦八四・七cm、横四〇・六cm、落款・印章はなく作者は不明であるが、制作年代は江戸時代前期と考えられる。図上の賛七行は真観上人の師周海の筆である。

像主真観上人は真盛寺の開基で、伊賀国（三重県）に生まれ、寛永五年（一六二八）江戸に下り、まづ川越仙波中院（埼玉県川越市）広海僧正、ついで上野東叡山凌雲院（台東区）周海僧正に随従し、寛永八年（一六三一）湯島天神前樹木谷（文京区）に真盛寺（天台宗真盛派）を創建、寛文四年（一六六四）に入寂したといわれている。

真観上人が格狭間金具付の礼盤上に坐す本図は、目鼻、耳の大きな像主の晩年の姿を描くが、それが寿像であるか遺像であるかは決めかねるものの、像主を莊嚴化しようとする意図のくみとれる点より見れば、上人没後間もなくの制作である可能性が強い。

江戸時代前期の天台宗系僧侶肖像画としては寛永寺の慈眼大師像（探幽筆）などが著名であるが、本図はそれらと較べてもさほど遜色もなく、おそらく名のある画家の手になるものと思われる。

### 【文化財所在地】

